

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）

E メール mail@kenpoukaigi.gr.jp
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp

TEL03-3261-9007
FAX03-3261-5453

2026年9月17日(木)

NO. 1714号

本号3頁

浜岡再稼働申請取り下げ 中部電、**原発扱う資格なし** **再提出断念し、廃炉に**

中部電力は、浜岡原発3、4号機の再稼働に必要な原子力規制委員会への申請を自ら取り下げると発表をしました。審査データのねつ造は、原子力の最低限の安全性を確認するための審査の信頼性を根底から揺るがす行為であり、審査が成り立たない事態を招いた以上、当然の決定です。

中部電力浜岡原発（静岡県御前崎市）の地震データ不正に関する調査委員会の報告書を受け、同社は社長、会長の辞任と再稼働審査の申請取り下げを発表しましたが、あくまで将来の再稼働を目指す方針は崩しませんでした。しかし、再申請などの「出直し」にはどれほどの時間、コストがかかるのか。それでもなお原発に拘（こだわ）る合理的な理由が見えて来ません。

中電の不正は、原子力規制委員会への公益通報をきっかけに発覚しました。3、4号機の再稼働審査で揺れを小さく見せるために耐震設計の基となる基準地震動（地震の揺れの最大想定）を不正に操作した、などとされています。規制委員会も調査中だが、今回、中電が設置した外部弁護士による調査委員会の報告書が公表されました。

報告書は、審査のスケジュールが遅れる中、再稼働を急がせる経営層の発言が「圧力」となり、不正の一因になったと認定しました。慎重な対応が不可欠な手続きでスピードを優先させれば、不正を誘発しかねないことは容易に想像できます。経営層による不正の指示までは認定されませんでした。現場を追い込んだ責任は極めて重い。林欣吾社長と勝野哲会長の引責辞任は当然です。

規制委への申請は取り下げの方針で、再稼働はさらに見通せなくなりましたが、林社長は会見で「あきらめず再申請に向けて取り組む」と述べました。しかし、報告書が不正行為ですら正当化する特異な考え方が現場に広がっていた、としたように内部の都合がやすやすと安全倫理を超える企業風土の病巣は根深く、その道のりは極めて険しいと言わざるを得ません。

浜岡原発は中電で唯一の原発ですが、不稼働でも維持費は年間1千億円ともされます。しかも南海トラフ地震の想定震源域に位置し、地震国の日本の中でも特に災害リスクが高い。深く傷ついた信用を回復し、再申請が認められるまでの時間的、経済的なコストを考えれば再稼働を断念し他の電力に注力する道もあろう。合理的な経営判断をすべきです。

そもそも、「安全」が、コスト面でも行政手続き面でも極限まで求められるのは、それだけ原発が危険だからです。それを、短期的な利益を求める民間企業が手がける構図に無理はないか。それでも原発に拘（こ）るのか。原発回帰を進める政府への問いでもあります。

「知事が重機にはねられた」再生回数急増、**真実置き去り…** **AI が揺るがす沖縄県知事選**

沖縄県知事選は、「政策対決」よりも「偽動画対決」の様相を呈していました。生成AI（人工知能）で作られた中傷動画や偽造ポスターがSNSを通じて急速に拡散し、有権者の判断を惑わせているとの懸念が高まっていました。

X（旧Twitter）には、現職の玉城デニー知事とみられる人物が重機にはねられたり、頭から地面に落下したりする場面を収めた動画が相次いで投稿されました。実際の事故映像のように見えますが、AIで合成・制作された偽動画でした。

動画は荒唐無稽で奇怪な内容ほど急速に拡散しました。一部の投稿は閲覧数が数十万回に達したとか。真偽が確認される前から、「この人物に沖縄を任せていいのか」といった批判がコメントとともに広がりました。

玉城知事を標的にしたネガティブキャンペーンも続きました。「玉城知事が再選されれば沖縄を中国に奪われる」といった根拠のない主張が、動画や投稿の形で拡散。あるインフルエンサーが投稿した中国脅威論の動画は数百万回表示され、選挙戦を過熱させました。

新人の古謝玄太候補も、AIによる偽情報の標的となりました。SNSでは、古謝候補の顔とともに「国益にかなう沖縄をつくる」と記された選挙ポスター風の画像が拡散。投稿を見た利用者からは、「県民の利益より国益を優先するのか」との批判が出ました。

しかし、古謝候補側は、この文言を使ったことはないと明らかにしました。日本ファクトチェックセンターが画像を分析した結果、GoogleのAI生成コンテンツ識別技術「SynthID」が検出されました。古謝候補陣営が作成した公式の広報物ではないことを意味します。

問題は、画像が削除された後も、すでに拡散した複製画像やスクリーンショットが残り続ける点です。選挙陣営が「偽物だ」と説明するころには、元の画像を見た人よりも、偽画像だけを記憶している人の方が多くなっている可能性もあります。

選挙のたびにエスカレートするSNS等による誹謗中傷は大問題です。抜本的な対応が必要です。

非力なままではいけない 沖縄知事選 デニー知事会見（要旨）

沖縄県知事選の結果判明後の13日夜、那覇市内で玉城デニー知事が行ったあいさつと記者会見の要旨の一部は次の通りです。

【あいさつ】

これが政治の結果だということであれば、それをしっかりと受け止めることが民意です。ただ、（相手の）物量など、私たちにとって不利な戦いでした。今後も物量でかかってくる政府丸抱えの圧力に対して、非力である者がどう立ち向かっていくのか。非力であるものが非力のままであってはいけません。非力であれど、したたかな戦略を築いていくことも求められると思います。この結果を糧として、しっかりと、かみしめたい。

【一問一答】

（敗因） いろいろありますが、選挙に名を借りた、ひどいありさまが野放しになっています。特にSNSの状況。良識ある国民や有権者の選択が、ゆがめられるようなことがあってはなりません。国は早急に対策を講じるべきだと痛感しました。

（辺野古新基地について） （辺野古）容認の古謝氏を選んだのは県民の選択です。ただ、辺野古は作れません。辺野古を作って那覇空港を差し出すのか？ 古謝氏はそれを答えていない。矛盾がある計画を進めている国に対して、それでは納得しないという、県民を代表して私が主張したことは間違っていない。

（「オール沖縄」について） わたしたちは県民党で戦います。「オール沖縄」はその一部です。翁長雄志知事が立ち上げた「オール沖縄」とは、陣容も構成もその位置付けも違ってきます。しかし、「建白書」の実現という理念はぶれていないことは何度も申し上げてきました。

（SNSの猛威） 1対1でやりとりをしていると思っていたら、何万、何十万と一気に叩かれてしまう。まともな人は持たないでしょう。日本の文化、言葉も暮らしも歴史も著しく破壊する。もはや選挙だけの話ではないと思います。

自分の本名も顔も出さない罵詈（ばり）雑言で人を自死にいたらしめる。国が本腰を入れて対応しないと、被害者は後を絶ちません。選挙期間中、「デニーさん応援して動画を貼ったら何千という書き込みがあり、見るのがつらくて動画を全部削除した」など、私だけではなく、私を応援する者も含めてつぶしてしまえということがまかり通ってしまう。

潰し合いの潰し合いはやがて犯罪になり、戦争になります。この国の戦意高揚は、SNSから広がっていくのではないかとというぐらい危機感を持っています。沖縄県知事選は、戦意高揚のはざまにあるのではないかと。日米同盟、日中、日韓、日朝関係のうっぷんの掃きだめにされてしまった。

憲法上の表現の自由はもちろん保障されるべきですが、そこから行き過ぎたら犯罪行為だということは容易に議論できるはずです。兵庫県知事選、宮城県知事選、沖縄。だんだんひどくなっています。いつまで政府は手をこまねているのか。次の犠牲者は次の国民の誰かです。

一緒に学習しませんか!!

憲法会議 2026 年秋の憲法講座

戦争か平和かの岐路－大軍拡・改憲阻止 憲法を生かした政治を！

高市自維政権が発足して1年。大軍拡予算、武器輸出の全面解禁、国家情報会議設置法や国旗損壊処罰法を強行成立させるなど改憲・戦争する国づくりへの策動が強まるもと、一方で憲法守れの市民運動にペナライトを持った若者の参加等、全国に広がり改憲派の自由にさせない状況をつくってきました。

2026秋の憲法講座は、法律家として改憲を許さないと奮闘している大江京子弁護士を招いて、第221国会の憲法を守るたたかいを振り返るとともに、今後の動きを視野に、たたかいの方向性について学びあいます。

＊講座・講演 大江京子 弁護士・改憲問題対策法律家6団体連絡会事務局長

演題 「高市改憲の動向と私たちの対抗」

＊国会報告 日本共産党国会議員（要請中）



＊と き 2026年10月17日（土）
10時00分～12時30分（9時30分開場）

＊と こ ろ ラパスホール（東京労働会館）
東京都豊島区南大塚 2-33-10（JR大塚駅・地下鉄新大塚駅 徒歩5分）



QR コード

＊資 料 代 1000円（学生500円）当日会場でいただきます。

＊主 催 憲法会議（憲法改悪阻止各界連絡会議）

＊協 賛 神奈川憲法会議／埼玉憲法会議／
千葉県憲法会議／東京憲法会議

＊Youtube で同時配信します。

右上のQRコードからご視聴ください。

・視聴される方は1000円（学生500円）を、
郵便振替 00160-8-66110 憲法会議 に振り込んでください。

＊事前お申し込みをお願いします。下記へご連絡ください。



◆申し込み・連絡先◆

憲法会議 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-32 金子ビル 103

TEL03-3261-9007 FAX03-3261-5453 Eメール: mail@kenpoukaigi.gr.jp

● 憲 法 講 座 受 講 申 込 書 ●

氏 名	住 所	電 話	ファックス	メールアドレス